



■少子化による児童生徒数の著しい減少

○児童生徒数の現状

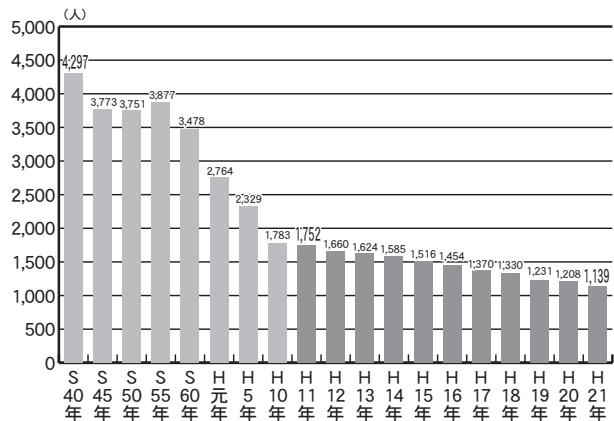
現在、留萌市内の小中学校は、小学校8校、中学校3校で合計11校、平成21年5月1日現在の児童生徒数は、小学生1、139人、中学生616人、合計1、755人となっています。

これを10年前の平成11年の児童生徒数と比較すると、当時の小学生1、752人に対して613人の減少(△35.0%)、また、中学生も平成11年当時の1、006人に対して390人の減少(△61.8%)となっており、この10年間において、合計1、003人(△36.4%)もの小中学生が急激に減少しているといった状況になっています。

○児童生徒数の今後の推移

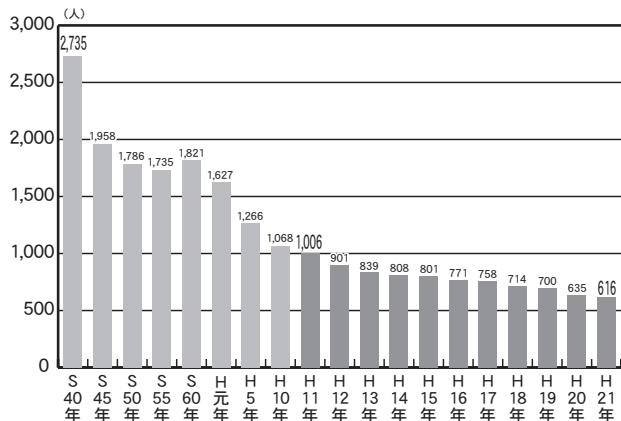
平成21年5月1日現在の実際の児童生徒数及び未就学児の人数と過去5年間の児童生徒数の減少率を基礎データとした将来推計によると、小学校の児童数は、平成28年では948人(21年対比△16.8%)、また、中学校の生徒数は396人(同△35.7%)となり、平成21年と比較した場合、小中学校あわせて411人の減少となる見込みであり、その後も児童生徒数の減少が続くことが予測されます。

【留萌市内小学校 児童数の推移】

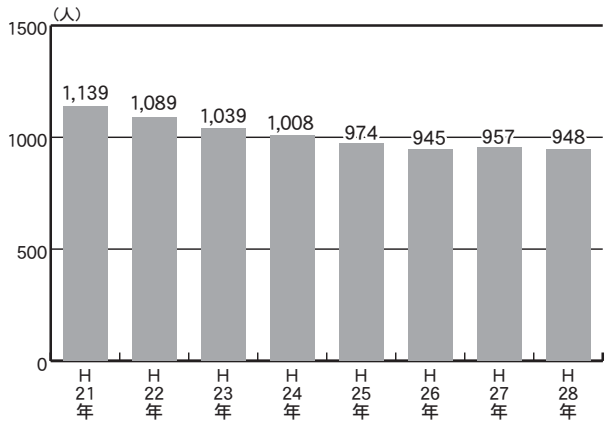


※S40年からH10年までは5年ごと、H11年からH21年までは1年ごと

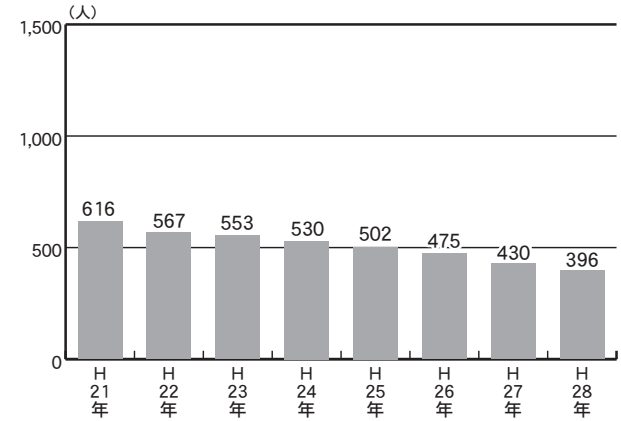
【留萌市内中学校 生徒数の推移】



【留萌市内小学校 児童数の推計(見込み)】



【留萌市内中学校 生徒数の推計(見込み)】



過疎化・少子化の進行による児童生徒数及び学級数の減少、空き教室の増加など、市内の小中学校を取り巻く状況は、今後さらに厳しい状況になっていくと思われます。留萌市教育委員会では、市内小中学校の適正な学校規模による、適正な学校配置に向け、様々な角度からの検討を行い、新たな「留萌市立小中学校適正配置計画」を策定し、次代を担う子どもたちの望ましい教育環境の整備を目指します。

■適正規模・適正配置に向けたこれまでの取り組み

留萌市では、これまで少子化により多くの小中学校が小規模になってきたことから、平成14年5月「留萌市立小中学校適正配置検討委員会」を設置し、少子化による児童生徒の減少や市街地形成の変化など、教育環境が大きく変化する中で、中長期的な視点に立った望ましい学校の在り方について検討を行い、その結果について「留萌市立小中学校適正規模及び配置について(報告書)」として報告を受けました。

その後、現在までこの報告に基づいて、学校配置(通学区域を含む)と適正規模及び小規模な学校の取り扱いについて、地域や保護者の皆さんとの協議を進め、これまでに小規模化が著しくなっていた小学校2校(藤山小学校、礼受小学校)、中学校1校(幌糠中学校)を統廃合するなど、少子化に対応

■市内小中学校の児童生徒数と学級数の現状

(資料：学校基本調査 平成21年5月1日現在)

	学校名	児童生徒数	学級数	備考
小 学 校	留萌小学校	279名	15学級(3学級)	
	東光小学校	332名	16学級(4学級)	
	港北小学校	50名	7学級(2学級)	複式含む
	三泊小学校	18名	3学級	複式含む
	潮静小学校	102名	9学級(3学級)	
	緑丘小学校	220名	11学級(4学級)	
	幌糠小学校	13名	3学級	複式含む
中 学 校	留萌中学校	368名	15学級(4学級)	
	港南中学校	219名	11学級(4学級)	
	北光中学校	29名	5学級(2学級)	

※学級数の()内は特別支援学級数で内数

*標準的な学校規模：平成19年に道教委から示された「公立小中学校における標準的な学校規模の考え方」による基準

■学校施設の現状と課題

児童生徒数の減少により、当時の児童生徒数で適正な規模だった学校施設では、空き教室の多くが固定化されている状況です。

学校施設は児童生徒が1日の大半を過ごす学習や生活の場であり、また、災害発生時には児童生徒の安全確保や緊急避難場所として地域住民の命と安全を守る重要な役割を担っています。

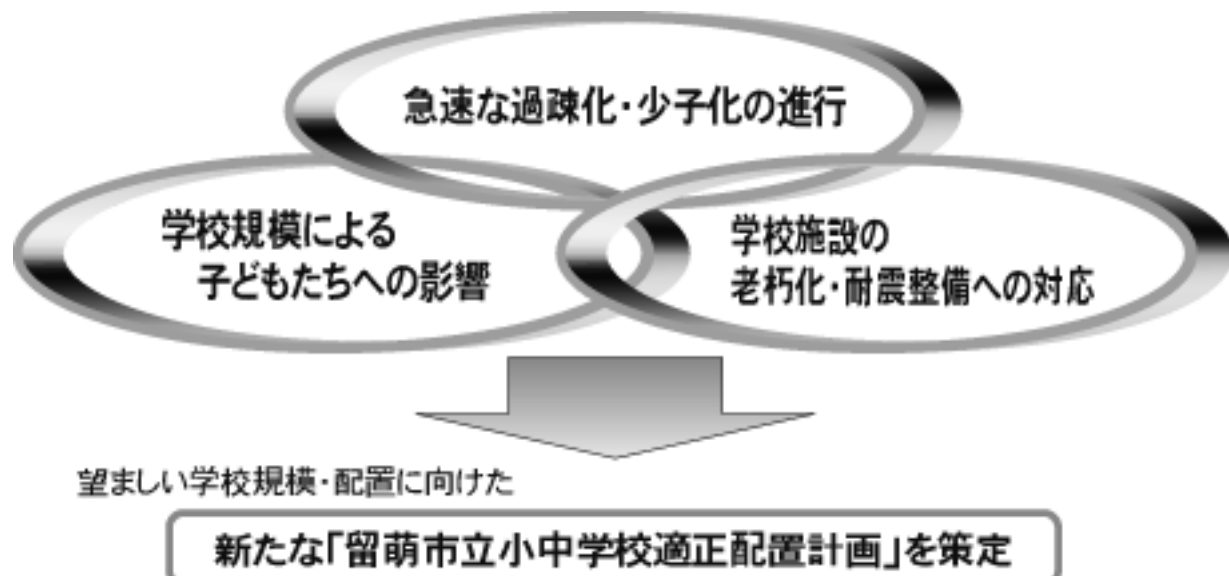
子どもたちが安心して学べる環境を整備するため、学校施設の耐震化対策についても、緊急性の高い建物から優先的に耐震化に取り組みなければならず、今回策定する「小中学校適正配置計画」に合わせながら、計画的に整備していかねばなりません。特に留萌小学校については、校舎の一部が築後40年以上を経過していることから、早急に改築が必要な状況になっています。

■学校規模の大小による学校教育への影響

学校規模の大小による学校教育への影響については、教育効果や学校経営の観点から様々なメリット・デメリットが指摘されていますが、小規模な学校については、一般的に次のような課題が指摘されています。

新たな「留萌市立小中学校適正配置計画」の策定に向けて

子どもたちの教育環境を最優先に考えて、学校教育は一定規模以上の集団で行うことを基本とし、様々な人間関係を通じて、より豊かな人間性や社会性、協調性、思いやりのある心を育くみながら、次代を担う子どもたちが健やかに成長していくためにも、新たな「留萌市立小中学校適正配置計画」の策定により、小中学校の適正規模化を積極的に推進します。



■留萌市立小中学校適正配置検討委員会による検討

少子化に対する適正規模や適正配置のあり方については、学校の教育的役割だけではなく、学校が地域で果たしてきた歴史的・文化的役割や公共施設としての機能など、地域の実情にも十分配慮する必要があります。また、学校の統合にあたっては、新たな通学路や学校名・校歌、事前交流の方法など、新しい学校づくりを円滑に進めるにあたっての様々な課題について、保護者や地域の皆さんから様々な意見をいただいた中で検討が必要となります。

このため、教育委員会では新たな「留萌市立小中学校適正配置計画」の策定にあたり、昨年12月に留萌市立小中学校適正配置検討委員会を設置し、留萌市の中長期的な視点に立った望ましい学校のあり方について、十分協議を行っていくことにいたしました。

検討委員会のメンバーは、教育関係者として市内校長会・教頭会と社会教育委員、保護者の側からは小中学校PTA連合会、幼稚園・保育園PTA、また広く地域の声を聞くために、各区コミセン運営協議会、商工会議所、それぞれの代表16名により構成しています。

小中学校適正配置計画に関するお問い合わせはこちらまで

留萌市教育委員会

学校教育課

☎ 42・3006

E-mail: kyouiku007@yacht.ocn.ne.jp



また、パブリックコメントの実施により、広く市民の皆さんからの声を聞くとともに、全市的な共通理解をいたしながら、子どもたちの教育環境を最優先に考えた計画の策定を進めていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

□小規模な学校の課題

項目	課題
児童生徒の学習面	○少人数による同一グループでの学習となるため、学習意欲や競争心を欠く傾向が生じやすい。 ○課題を解決する学習などの場合、発想や着眼点が固定化しやすく、また相互の考えを交流させて新たな着想を持つなどの発展的な学習に結びつきづらい。 ○体育授業での種目が制限される。
児童生徒の生活面	○運動会などの学校行事では、内容に限りがあるとともに、個人の負担が大きい。 ○互いに切磋琢磨する機会が少なくなり、子どもに社会性が育ちにくい。 ○クラブ・部活動などで種目が制限される。(野球・サッカー・バレーボールなど) ○多様なものの見方・考え方を学んだり、新しい人間関係を作ろうとする機会が少なくなる。 ○単学級によりクラス替えがない場合、卒業まで同じメンバーで学校生活を過ごすことになり、人間関係が固定化される。 ○教師に依存する傾向が強くなりやすく、主体性や社会性などが育ちにくい面がある。
学校の運営面	○教職員の配置が少ないため、一人の教員が複数の校務を担当することになり、個々の教員の負担や時間的制約が大きくなる。 ○校外学習などにおいて、一人の児童生徒にかかる費用の保護者負担が大きくなる。 ○施設維持費・光熱水費など管理費コストがかさむ。

＜望ましい学校規模の考え方＞

学校の規模については、児童生徒がより充実した教育活動や学校生活をおくるにあたって大変重要な要件の一つになります。

教育委員会では、望ましい学校規模について次のように考えます。

- 次代を担う子どもたちの健やかな成長のため、学校教育は一定規模以上の集団の中で行うことを基本とし、多様な考え方を持つ児童生徒がそこで出会い、協調性、社会性を身につけ、望ましい人間関係を築きながら学校生活をおくる必要がある。
- 定期的なクラス替えにより、人間関係に変化をもたらし、その過程を通して新しい成長の機会を得るためにも、1学年1学級の単学級の解消を図り、クラス替えが可能な1学年2学級以上の確保が望ましい。
- 音楽や体育、クラブ活動・部活動、学校行事などでは、教育活動の効果を高め合う一定規模の集団が必要である。
- 中学校では、各教科に専門教員の確保、特に主要5教科においては、複数の教員確保が望ましい。

■新たな「小中学校適正配置計画」の策定に向けて

このように、学校の適正な規模と配置にあたっては、過疎化・少子化の進行による児童生徒数の著しい減少、老朽化する学校施設、学校規模の大小による学校教育への影響など、実に様々な課題を抱えています。

また、平成21年度からは「新・留萌市財政健全化計画（計画年度：平成21年度～27年度）」に基づき、市民の皆さんと市が危機感を共有し、留萌市全体が一体となって財政健全化に取り組んでいるところですが、義務教育における機会均等や教育の質の確保のため、時代の変化に対応した教育条件、教育環境の充実、さらには老朽化が進む学校施設の耐震化、大規模改修への対応など、「21世紀の学校」にふさわしい教育環境の抜本的充実を図るためにも、限りある財源の重点的投資による効果的な教育環境の整備を進めていくことが重要です。

こうした課題の解決に向け、適正な学校規模による適正な学校配置を目指すにあたり、基本的な考えや今後の取り組みについて、新たな「留萌市小中学校適正配置計画」の策定を進めていきます。